竹竹(Také Daké) メッセージ『音楽への愛と感謝』

伝統的サウンドからコンテンポラリージャズまで、竹が生み出す不思議な世界。

このグループの楽器は全てアジアに原生する竹のみで作られています。フレームや台等に一部金属や木を使用しておりますが、振動して音を出す部分はドラムやコンガの皮面に至るまで全てが竹でできています。
そして、それらの楽器にて編成されたバンド『竹竹』のサウンドはアジアを中心とした様々な音楽に感化されております。全ての音楽は人の心を動かし、音や静寂の向こうにある何か大きなものに触れさせることのできる偉大な力を持っているのではないでしょうか。
世界の音楽への愛と感謝、それが『竹竹』の最大のメッセージです。日本、中国、インド、インドネシア、その他の国々の偉大な音楽の伝統に感化され、『竹竹』の音楽は作られてきました。楽器、リズム、音階、構成などそれぞれの文化全てに固有の表現法が見られ、それらは竹だけで生み出すことのできる新しい音を育てるための豊かな土壌を与えてくれています。
『竹竹』に使われている竹は、日本、中国、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、インド、ハワイなどの各地から得られたものです。竹だけを使うことで、この柔軟性に富む天然素材がそれらの地域の文化にいかに重要な役割を果たしているかを皆様にお伝えできればと思います。『竹竹』の自然の音を紡ぎ合わせて作った音楽をお聴きになった皆様に、竹という美しい天然資源を通して、我々の周りの環境を再認識し、雄大なアジアの自然の尊さを実感していただければと願っています。

John・海山・Neptune
ジョン・かいざん・ネプチューン

（尺八）

1951年カリフォルニア州オークランドに生まれる。
尺八奏者であり、ジャズアーティスト、作曲家など多彩かつハイレベルな音楽活動を展開している。
1973年ハワイ大学時代に尺八の勉強のために京都へ短期留学。卒業後、本格的に京都に居を構え、精進を経て都山流の師範免許と共に雅号「海山」を授与される。その後コンテンポラリーミュージック界に確かな軌跡を刻み続けてきた。昭和55年度芸術祭優秀賞を外国人アーティストとしては初めて獲得した。
1991年には琴とパーカッションを加えて、異色のバンド『トウキョウスファー』を結成するなど、前人未到の風土の中へと尺八を携えていき、新境地を開拓していった。

浜田 均
はまだ ひとし

（バリフォーン）

1953年北海道富良野に生まれる。
高等学校の軽音楽クラブでジャズバンドを作って演奏を始める。東京都立大学理学部物理学科に進学するが、その傍ら早稲田大学モダンジャズ研究会に参加して、ヴィブラフォンで演奏活動を始める。
その後もジャズの道にのめり込んでいき、卒業後音楽の道を志す。そのため、東京芸術大学別科打楽器に進学して有賀誠門、高橋美智子に師事。修了と同時に猪俣猛のグループ「フォース」でプロデビューする。そこで、ジャズヴィブラフォン奏者として高い評価を得る。
グループ解散後は、フリーランスミュージシャンとして多数のセッション、レコーディングに参加。

Mark DeRose
マーク・ディローズ

（竹のドラム）

1961年ニューヨークに生まれる。
趣味は空手、カンフー。
ドラムス・パーカッションの作曲、編曲を手懸ける。
最近ではNHK BS2「流行最前線」でGAOとセッション。NHK総合テレビ「ふるさと民謡スペシャル」など出演。
平安建都プレイベント「未来舞台 in TOKYO」では、和太鼓と共演。平安建都1200年のオープニングで自作の『京・鼓・動』を披露。

Christopher Hardy
クリストファー・ハーディ

（竹のパーカッション）

アメリカ、ミネアポリス出身。
1988年ミシガン大学音楽部打楽器専攻を卒業。打楽器をマイケル・ユダオ、ヴィブラフォンをテッド・ピルツェッカー、作曲をジョージ・ウィルソンに師事。
1995年には政府主催による戦後50年の集い（国立劇場）での開幕の音楽を担当。定期的なリサイタルは、各誌で高い評価を受けている。数少ないバンドドラムのスペシャリストとして、ジャズや中近東音楽、中世の古楽器演奏グループなどとの共演を重ねている他、創作楽器や演奏法などの開拓による、独自のサウンド作りが他のジャンルのアーティストと共鳴し、多くのコラボレーションを生み出している。

納見義徳
のうみ よしのり

（竹のパーカッション）

日本ラテンパーカッション協会会長。
チャーリー石黒と東京パンチョス」、「見砂直輝と東京キューバンボーイズ」等のラテンバンドで活躍。
1975年単身で、キューバに本格的ラテンリズムを学びに行き、それ以後キューバ、メキシコ、ペルー等の中南米諸国を幾度となく訪れるなど、リズムの研究を続けている。
「オルケスタ246」「ハバナクラブ」「トキオソン」等のサルサバンドを率い、「バスター」「上田力とパワーステーション」等のフュージョンバンドにも席を置き、モンタレージャズフェスティバルに出演する等、ジャズの演奏も行ってきた。
現在はスタジオミュージシャンとして活躍すると共にラテン、ジャズ、邦楽と、幅広く活躍している。

香取良彦
かとり よしひこ

（バンベース）

1960年 大阪生まれ。
高等学校在学中より多くの楽器に親しみ、指揮・編曲を始める。この頃の音楽の好みは、フォーク、ロック、イージーリスニング、フュージョン、ジャズへと急速に変わる。
早稲田大学在学中に所属したハイ・ソサエティー・オーケストラにおいて、ピアノ、ヴァイブを始める。ヴァイブを浜田均氏、アレンジを北川祐氏に師事。在学中よりライブ等の音楽活動を始め、1987年バークリー音楽大学に入学。在学中はゲイリー・バートンに師事。デューク・エリントンに奨学金を得る。
1989年帰国後、演奏では自己のコンボやオーケストラ等で活躍。スタジオワーク等の他にドラムレストリオで各地へのツアーも行っている。

越前竹人形の里展　とき：5月25日(金)～28日(月)　午前9時～午後6時30分（最終日は6時終了）　ところ：画廊 越美館　福井市春山2-6-1　TEL 0776-23-5028